

## 松下国際財団 研究助成 研究報告

【氏名】藏本 龍介

【所属】(助成決定時)東京大学大学院 総合文化研究科 超域文化科学専攻 文化人類学分野

【研究題目】

上座仏教徒社会における「寺院経済」

－ ミャンマー都市部における布施の流れに関する文化人類学的研究 －

【研究の目的】

本研究の目的は、ミャンマー最大都市ヤンゴンにおいて、布施に伴うヒト・モノ・カネの流れを分析することによって、都市における寺院の活動がどのようなメカニズムで成立・維持されているのかという問題を、文化人類学的観点から検討することにある。

上座仏教徒社会では、僧の生活、寺院の運営、仏教徒組織などの活動はすべて在家信徒の布施でまかなわれており、市場経済とは別の「寺院経済」と呼ぶべき経済セクターが存在する。布施という行為は個人的な欲求に動機づけられているが、布施という形で僧・寺院・仏教徒組織などに集中するヒト・モノ・カネは、様々な布教活動において社会に還元され、仏典学習や瞑想といった僧・在家の仏教実践の土台を形成し、しばしば社会福祉的機能をも担っている。しかし村落のような固定的な寺檀関係が存在しない都市部においては、布施の流れの実態は複雑である。そこで本研究ではミャンマー都市部の「寺院経済」の実態を現地調査によって明らかにすることによって、現代都市社会における上座仏教寺院の社会的基盤・役割についての一つのモデルケースを提供することを目的とする。

【研究の内容・方法】

2008年10月から2008年12月にかけて、ミャンマー最大都市ヤンゴンにおいて3ヶ月間の現地調査を行った。調査方法・内容は以下のとおりである。

①寺院経営の実態調査:モノ・カネ・労働力などの布施が最も集積されるのは、諸々の布教活動を行う寺院である。設立のための土地や建物、僧の日々の衣食住、教育や瞑想や儀礼等の布教活動、学校や病院支援等の福祉的活動などは、すべて布施でまかなわれている。そこでそれぞれの寺院が活動に必要なヒト・モノ・カネをどのように、どのくらい得ているのか、得たヒト・モノ・カネをどのように使っているのかについて、僧や寺院管理委員会へのインタビュー、活動報告書・収支決算書等の分析を行った。

②在家の布施行動の実態調査:寺院経済を考える上では、個々人の布施行動の実態を把握する必要がある。そこで在家者を対象に、収入に占める布施の割合、どのような機会に布施をするか、どこに布施をするか、なぜそこを選んだかといった項目について、アンケートおよびインタビュー調査を行った。また、土地や建物などの高額な布施者については、布施をした寺院との関係や布施をするまでの経緯などについて、より詳細な実態調査を行った。

③仏教徒組織の活動について:寺院の内外で活動する様々な種類の在家仏教徒組織の活動は、布施の偏りを是正するという意味において、重要な役割を果たしている。これらの組織は地区や町単位で組織されることが多く、日常的に地域の寺院への布施を行う他、仏教に関連する年中行事に際して諸々の布施会を開くなどして、積極的に布施の機会をつくりだしており、個々の在家と寺院をつなぐ中間項的な役割を果たしている。そこでこうした仏教徒組織が寺院とどのような関係を取り結び、寺院をどのように支援しているかについて、インタビュー調査を行った。

【結論・考察】

都市住民の布施にはそれぞれの趣向に応じて偏りがある。仏教徒組織の活動は布施の少ない寺院にとってのセーフティーネットとしての役割を果たしているが、こうした布施の偏りを平準化するほどではなかった。したがって個々の寺院の活動は、布施の集まり方に規定されている側面が強い。つまり寺院の活動は、①自己救済活動(出家者の生活・修行を支える活動)、②他者救済活動(弟子の育成や在家教化といった布教活動)に大別できるが、布施が少ない多くの寺院は①の活動しかできず、布施が集中するごく少数の寺院のみが、②の活動を行っていた。また、大規模寺院においても、活動規模に見合うだけの布施を安定的に確保し続けられるとは限らず、活動規模の縮小や廃止といった状況がしばしば生じている。他宗教と比べた場合の上座仏教寺院の盛衰の激しさ、動態性は、布施に依拠していることが大きく関係していると考えられる。